

# トウモロコシの 品質・収量アップを目指しましょう

現在、輸入飼料・肥料の価格が高騰しているため、自給飼料の増産は、経営改善のための重要な課題となっています。自給飼料の増産には様々な方法がありますが、**『奨励品種の作付』**や**『適切な播種時期・播種量・施肥量』**など、様々な技術を組み合わせることで、収量アップが期待できます。

今回は、トウモロコシの奨励品種の紹介と作付時期の目安をおさらいします。

## 奨励品種を作付けしましょう

県では毎年様々な品種の栽培試験を行い、地域の気象条件への適性、収量や病気への抵抗性に優れた品種を県の**『奨励品種』**又は**『認定品種』**に指定しています。

奨励品種は下表のとおり、その他の品種と比較して**収量アップ**が期待できます。

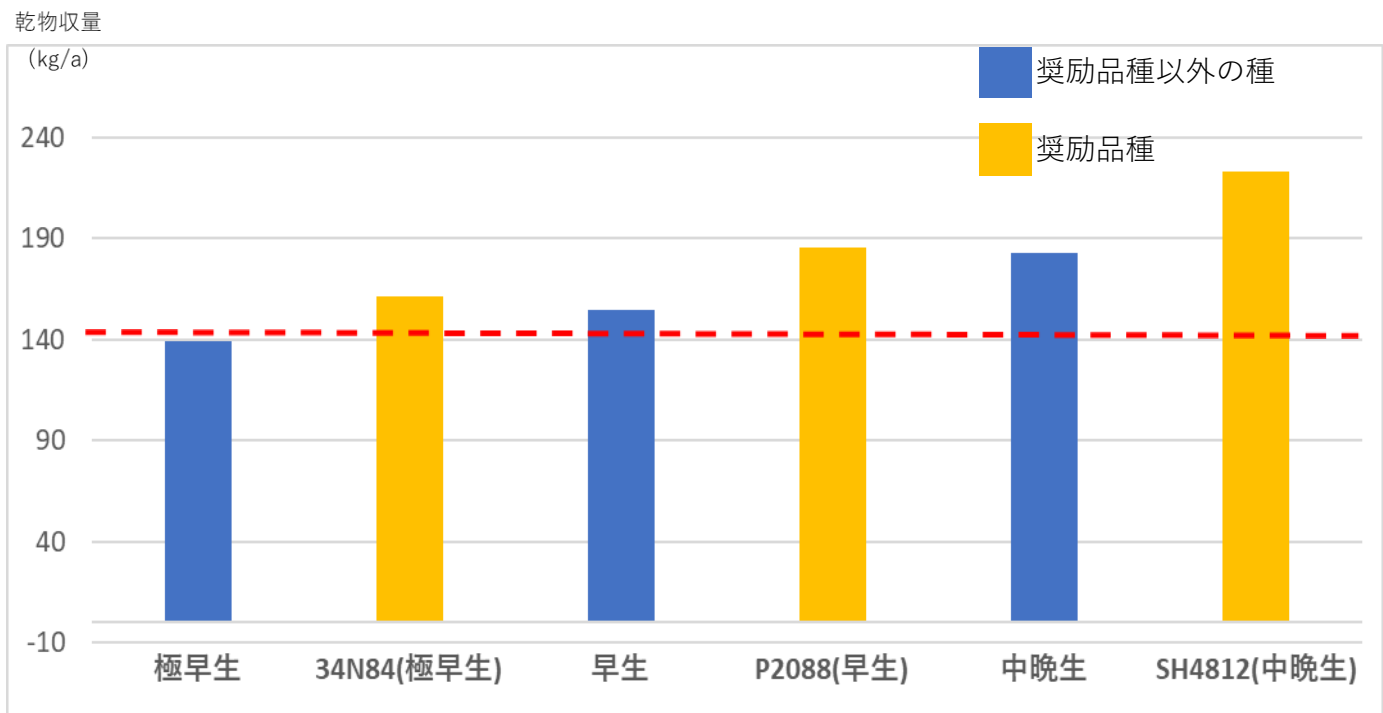


図 1 奨励品種と普通種の比較（飼料用トウモロコシ）

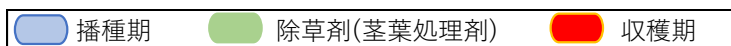
## 適期に播種しましょう

トウモロコシの安定栽培には適期播種が大切です。播種が早すぎると**発芽不良や遅霜**の心配があり、逆に遅くなると**病害虫被害拡大リスクや未熟での収穫**の可能性が高まります。

**平均気温が 10℃を超えた頃（ソメイヨシノの開花時期）が早播きの目安**で、RM115 以上の品種は早まきの場合天候によって、発芽・生育が不安定になる場合があるので注意が必要です。

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
多収栽培		●	●	●				●		
早取栽培		●	●	●			●			
遅播栽培				●	●				●	●

図 2 作付け体系例



## 収穫時期に注意しましょう

トウモロコシの収穫適期は「黄熟期中期～後期」であり、計画的な栽培を行うには**ミルクラインの確認**や**品種の早晩性に注意**して、収穫適期を把握しましょう。図 3 は、栃木県で最も多く利用されている RM123 の品種の「発芽～収穫」までの日数をマッピングしたもので、県内でも気温差によって収穫のタイミングが変わってくるので注意しましょう。

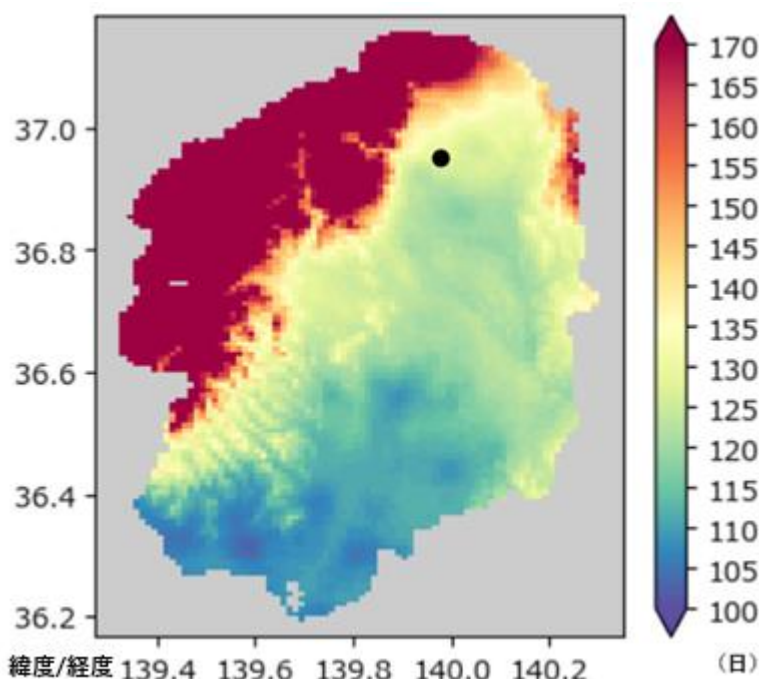


図 3 県内マッピング



図 4 ミルクライン目安図

# 飼料用稲の栽培のポイントについて

品質の良い稲 WCS（ホールクロップサイレージ）を作るために、栽培のポイントを確認しましょう！

## ○極短穂茎葉型品種の利用

稲 WCS の生産には、籾が少なく、茎葉が多い極短穂茎葉型品種「つきはやか（早生）」「つきあやか（中生）」「つきすすか（極晩生）」の利用がおすすめです。

### ■飼料用稲・飼料用米の奨励品種

5月移植、()内は6月移植の数値

品種名	早晚性	採用年次	稈長 (cm)	地上部乾物全重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	倒伏耐性	耐病性		耐冷性	脱粒性	穂発芽性	適用地帯			利用適性	
							いもち病	縹葉枯病				県南	県央	県北	稲発酵粗飼料	飼料用米
夢あおば	早	H28	87 (95)	1,980 (1,932)	710 (750)	強	不明	抵抗性	やや弱	難	中	◎	◎	◎	◎	◎
つきはやか	早	R3	105 (112)	2,103 (1,973)	304 (367)	強	不明	抵抗性	強	難	—	◎	◎	◎	◎	×
つきあやか	中	R3	110 (117)	2,131 (2,071)	150 (81)	強	不明	抵抗性	やや強	難	—	◎	◎	◎	◎	×
クサホナミ (認定品種)	晩	H22	100 (106)	2,234 (2,166)	877 (806)	強	不明	抵抗性	—	難	やや易	◎	◎	○	◎	○
つきすすか	極晩	H30	134 (122)	2,966 (2,824)	9 (61)	強	不明	抵抗性	弱	難	—	◎	◎	◎	◎	×

### ■極短穂茎葉型品種の栽培スケジュール

	5月			6月			7月			8月			9月			10月						
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下				
つきはやか (早生)	移植	→						出穂	→			収穫										
			移植	→						出穂	→			収穫								
つきあやか (中生)	移植	→						出穂	→			収穫										
			移植	→						出穂	→			収穫								
つきすすか (極晩生)	移植	→									出穂	→			収穫							
			移植	→									出穂	→			収穫					

これらの品種を組み合わせて、収穫期の分散を行いましょう。

さらに、極短穂茎葉型品種は糖含量が多いのが特徴です。糖が多いと良質発酵が進みやすくなり、牛の嗜好性がよい WCS が作れます。腐敗が少なく長期保存も可能となります。

## ○移植時期、栽培管理

飼料用稲は早く植えるほど多収かつ籾重割合が小さくなります。また、多肥条件下で増収が見込めます。追肥は出穂 30 日前までに行い、籾を増やす穂肥は避けましょう。

収量確保、籾割合を少なくするために、早植えのほか密植（坪 44 株程度）も有効です。

## ○収穫時期

籾の消化性と収穫時期の脱粒性、水分を考慮すると収穫適期は「黄熟期」です。「黄熟期」は、出穂後 30～40 日前後を目安に判断しましょう。出穂後の早刈りは低収、高水分、飼料成分が不安定となるため控えましょう。

極短穂茎葉型品種では出穂後 70 日頃（完熟期以降）まで糖含有率、TDN が高く維持されるため、収穫期を長くすることができます。

作付けする品種の収穫適期を確認し、高品質の WCS を作りましょう。

### ■飼料用稲の熟期の目安

熟期	出穂後の目安	稲の状態
乳熟期	10 日後	穀粒：葉緑素が存在し、緑色、胚乳は乳状
糊熟期	10～25 日後	穀粒：葉緑素が存在し、黄緑色、胚乳は乳状
黄熟期	25～40 日後	穀粒：葉緑素が存在し、黄色、爪で容易に破砕できる、胚乳はろう状
完熟期	40～50 日後	穀粒：乾燥して固くなり爪で破砕できない

飼料稲栽培のポイントをふまえ、品質向上と収量アップを図りましょう！

畜産酪農研究センター 草地飼料研究室

ホームページには研究成果や技術情報等を掲載しています。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g70/index.html>

